

平成29年度 第2回北杜市郷土資料館運営協議会会議録

日 時 平成30年3月29日(木) 午前10時30分～

場 所 北杜市郷土資料館情報室

出席委員 高橋達郎(花輪委員代理)・板山國夫・篠原旭・柴山裕子・柴田修・手塚和義・
鈴木今朝和・小池・勝・氏原宏幸・水原康道・八巻與志夫(11名)

欠席委員 溝口透(1名)

事務局 堀内教育長・井出部長・雨宮課長・村松・長谷川・浅川

北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき公開とする。

傍聴人 0/10人

1. 開会

雨宮課長から開会を宣す。

2. 教育長あいさつ

堀内正基教育長から、あいさつを述べる。

3. 会長あいさつ

水原康道会長から、あいさつを述べる。

4. 会議録署名委員指名

水原康道会長が議長となり、柴田修委員並びに手塚和義委員の2名の指名を行う。

5. 審議会の公開について

傍聴人がいないことを確認。以下議事に入る。

6. 議事

(1) 平成29年度郷土資料館事業について

村 松：「平成29年度郷土資料館事業」について資料により報告を行う。

議 長：質疑または意見を求める。

八 巻：講師派遣については、市内の学校へ派遣のほかに、在日本大韓民国婦人会中央本部などへの講師派遣もあるようだが、これらは県外などに派遣されているのか？

- 村 松：在日本大韓民国婦人会中央本部や港区教育委員会などは東京で浅川兄弟についての講演をおこなっているもの。他にも岩手県立水沢高校同窓会関東支部や在日本大韓民国婦人会近畿支部などもそれぞれ県外で浅川兄弟について話しをしている。
- 八 巻：県外にまで呼ばれて講師まで務めていることは大変注目をされており素晴らしいことなので、講演を行っている場所についても記載していただきアピールしていただきたい。
- 議 長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

(2) 平成 30 年度郷土資料館事業について

- 村 松：「平成 30 年度郷土資料館事業」について資料により報告並びに説明を行う。
- 議 長：質疑または意見を求める。
- 高 橋：平成 29 年度の実績をみれば、市内の学校も利用しているようだが、実物資料を見て学ぶことは大事なことであるので、なお一層市内の子どもたちが来てもらえればと思う。これまでも学校にも利用の呼びかけをしていただいているが、さらに学校にも周知をし利用の促進を図ってもらいたい。
- 板 山：先日社会教育の関係の会議でも話題になったが、地域の歴史について関心がない子どもたちが多い。そのなか郷土資料館で様々な事業を行ない子どもたちに地域の歴史に触れさせていることは大事なことだと思う。また教育委員会では 30 年度に地域探検のような事業も計画しているようである。このような機会をさらにつくっていてももらいたい。
- 篠 原：北杜市には国・県・市の指定文化財がたくさんあるが、どこにどのようなものがあるか知らない人がほとんどであり、もっと皆さんに市の文化財について知ってもらうにはどのように知らしめていけばよいのかと思っている。
- 会 長：合併前までは町や村の範囲は限られていたので、文化財にも目が向いていたが、市となり広域になっているので、郷土資料館が中心となってさらに文化財について周知をすることが大事になってくると思う。
- 部 長：市では公営アカデミーという子どもたちに様々な学習の場を提供する事業を進めている。教育委員会では来年度、市内の小学生を対象にしたバスツアーを 2 回計画している。その中の 1 回は梅之木遺跡や資料館などをバスで回りながら、地域の歴史を学ぶ内容を考えている。もう 1 回は地域の産業を知るなどのテーマを考えている。
- 会 長：合併よりだいぶ前の話になるが、各町村の社会教育担当が協力をして、各町村を子どもたちと歩いて回るという夏草道中の延長のような事業があった。
- 部 長：こういう時代であるので歩いてまわるというのは安全上難しいので、バスツアーというかたちになっている。
- 課 長：市のCATVの中では、指定文化財を紹介するコーナーがあり月 1、2 回放映し

ている。これは学術課職員が担当して各文化財を紹介している。また指定文化財を網羅した文化財マップを作成しており、市内の施設などに配布し周知に努めているところである。

柴 山：四季派書庫の利用が少ないように感じる。書庫を見たいとも思うが、保管の都合上見学などは難しいということであった。せつかくの資料なのでもっと利用しやすい方法を検討してもらいたい。

NPO 法人茅ヶ岳歴史文化財研究所にも関わっており、昨秋に藁で棧俵を作るイベントを行なったが、藁仕事が出来ることが本当に少なくなっていると感じた。手仕事のような技術が継承されずにどんどんなくなっていることに危機感を覚える。こうした技術の伝承についても資料館として考えていただきたい。

手 塚：最近の子どもたちはテレビなどから情報としては知っていても、いろいろなことを体験する機会が少ないと思うので、子どもたちに昔の生活を体験させてあげてもらいたい。

柴 田：明野郷土研究会では昨年小尾街道についての冊子を作成した。子どもたちからも昔はこのような道だったんだという驚きの声があった。今は車社会で道もどんどん整備され、かつての道の様相がなくなって来ているが、昔の道について子どもたちが学べる機会をつくってもらえるとありがたい。

会 長：先ほど市内の探検ツアーの話が出たが、こうした事業の中で昔の道についても扱ってもらいたい。

鈴 木：ここ数十年で地域の暮らしは非常に大きく変化した。この変化の過程や生活の変わりようについて、きちっと後世に伝えていくことが大事ではないか。1つのテーマを決めて部分的にやっていくことも必要だが、昔の生活を全体として記録し保存していくことが重要と感じる。

会 長：皆さんから意見が出ているように、一度「藁」をテーマにしてもいいのではないか。生活用具としての側面も当然あるし、呪術的な側面もあるので広がりのあるテーマだと思う。

小 池：いつも企画展の着想が素晴らしいと感服している。「埋められたモノ」についても面白いテーマだと思う。来年度郷土資料館では、この地域の大動脈である「中央本線」を取り上げるということで期待している。いままでの企画展において素晴らしい研究と資料の蓄積があるかと思うので、今回の企画展で一度総合的につなげてみてはいかがか。例えば鉄道がなかった時代の交通という意味では甲州街道の展示を行なっているし、産業という部分では養蚕やホップもある、また災害や小海線の企画展もあった。いままで掘り起こしてきたテーマを、鉄道を切り口としてつなげると総合的なよい展示になっていくのではないか。

また、この地域も時代とともに大きく変化し、新しい人がどんどん移ってきており住む人も変わってきているなかで、こうした新しい人たちも含めて地域のルー

ツとして共有できるようなものが何かというようなことを考えている。

会 長：企画展についての提案をいただいた。ぜひ他の委員さんからもいろいろな情報なり提案を事務局にあげてもらいたい。

氏 原：郷土資料館で行なっていた「昔の遊び」の展示を見学させてもらった。なつかしいものばかりで子どもの頃に帰ったような気持ちで見させてもらった。今の子どものようにゲームも何もないので、そこらにあるもので皆で工夫して遊んでいた。今の子どもたちにも当時の子どもたちの様子も知ってもらいたいと感じた。

子どもたちにユネスコエコパークのことを聞いても知らない子どもが多い。学校でも地域のことを教えてくれていると思うが、現在地域学習に使われている「私たちの北杜」という副読本も合併前のものと比べるとどうしても市全域ということで対象地域が広がってしまったので、それぞれの地域については詳しくなくなってしまっている。地域のことを学校で学ぶ機会が少なくなっているので、郷土資料館で行なっている事業は大変大事なことだと思う。

資料館の事業にいろいろ参加させてもらっているが、参加している人は同じ方が多く、しかも新しく移り住んだ人が多いようだ。もともとの地元の人にももっと活用してもらいたいと感じる。

八 巻：スパティオ小淵沢でロビー展示を行なっているということで、これは素晴らしいと思う。他の博物館でもこうした事業を行ないたいのが、責任の所在や事故の問題などあり実現できていないことが多い。具体的にスパティオとの間でどのような契約を交わしたのか教えてもらいたい。

共生ビジョンバスツアーを予定しているようだが、原村と富士見町と行政の枠を超えて連携した事業をどのように予算を組んで実施しているのか教えていただきたい。

各委員さんの話しのなかで共通しているのは伝承されてきた技術がなくなっていくことへの危惧であったと感じる。具体的には藁を編む技術についての部分があったと思う。来年の冬の収蔵資料展は「藁」をテーマに行なうといいのではないか。おそらく市内でも水田地帯や養蚕地域、山仕事の地域など、それぞれの地域によって藁製品も微妙な違いがあるのではないか。

もう一つ提案だが、30年度の事業計画をみると、企画展などの日付が決まっていないものがあるが、委員の皆さんにも周知してもらえるように、これについては一刻も早く決めたほうがよいと思う。

部 長：スパティオについては指定管理者が運営しているが施設自体は市の施設であるので、責任の所在などについては共有しやすく話しがまとまりやすかったということがある。ロビー展示自体は市にはたくさん文化財があり、スパティオでも一部展示することで情報発信し地域活性化につなげたいとのことで、スパティオ側から持ちかけられたものであった。地域の特産物などはアンテナショップなどを

通じて県外の人たちにもアピールしているが、これと同じように外から市へ来た人たちに情報発信する場としていきたい。また現在は考古資料館の資料を展示しているが、資料の入れ替えに際しては郷土資料館の企画展にあわせて郷土資料館の資料の展示にも使い、人の流れを誘導していきたい。

高 橋：30年度の事業を開始していくに当たって、現在の郷土資料館の一番の課題はどこだと考えているか。

部 長：さまざまな事業を工夫して行なっているが、その事業を広く発信していくことについては弱い部分があり、ここが一番の課題と考えている。

高 橋：情報発信が課題ということであったが、今企業は企業同士や団体などとコラボをしながら事業を進めていることが多い。今のままでは地域の人々の利用を増やしていくことは厳しいと感じるので、郷土資料館においてもさまざまな団体や子どもが集まるイベントなどと協同しながらやっていくといいのではないかと感じた。

議 長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

(3) その他

村 松：「市立高根北小学校の跡地利用」について郷土資料館の収蔵庫として活用できるように現在協議中である旨を資料により説明を行う。

議 長：質疑または意見はないか。なければ閉会とする。

7. 閉会

八巻副会長から閉会を告げる

(午前 11 時 55 分終了)

平成30年3月29日

会 長 水原 康道

署名委員 柴田 修

手塚 和義

書 記 長谷川